

熊本県立美術館

この美術館は、熊本城の敷地内の北西の一角に位置しています。建物は、ル・コルビュジエの弟子であり、東京・上野の東京都美術館の設計も手がけた著名建築家・前川國男（1905-1986）による設計です。周囲の自然景観に溶け込むこの低層建築は、前川の代表作の一つとされています。

美術館の収蔵品は、熊本とつながりのある日本古来の美術、熊本ゆかりの芸術家による日本近代美術、そして西洋美術の3つに大別されます。「今西コレクション」は、著名な収集家である今西菊松（1913-1987）が収集した浮世絵、茶道具、骨董品などを展示しています。「浜田知明室」では、熊本出身の彫刻家・美術家であり、1917年から2018年まで存命だった浜田知明の作品が展示されています。展示内容は一年を通して定期的に入れ替わります。

細川コレクション

美術館の下層階には、西暦200～600年に作られた巨大な墳墓である「古墳」に、絵付けや装飾を施したものが常設展示されています。全国に700基ある古墳のうち、約200基の古墳が九州にあります。

「細川コレクション」の中核的な展示品は、1632年以来、熊本藩を支配していた細川家において、11代にわたって形成されたものです。細川家は、現在も日本に大きな影響を与えています。1993年から1994年にかけては、18代当主の細川護熙（1938-）が総理大臣を務めています。東京の公益財団法人永青文庫には、安土桃山時代（1568-1600）から昭和（1926-1989）にかけての絵画や線画、能面、茶道具、甲冑など約9万点が収蔵されています。別館または本館の展示場で、テーマ別に30～60点が交代で展示されています。

館内のカフェやテラスからは城の敷地内を見渡すことができ、地域の美術品と触れ合いながら元気を取り戻すのに最適な場所となっています。